

第 1 2 回森吉山麓高原自然再生協議会 協議事項

1 事業地の絞り込みについて

現在の実施計画では 189ha（草地部分）を事業の対象として進めていますが、現計画期間が平成 2 2 年度を計画期末となっていることから、次期実施計画等を勘案して、優先的に事業を実施すべき箇所の検討が必要となっていました。

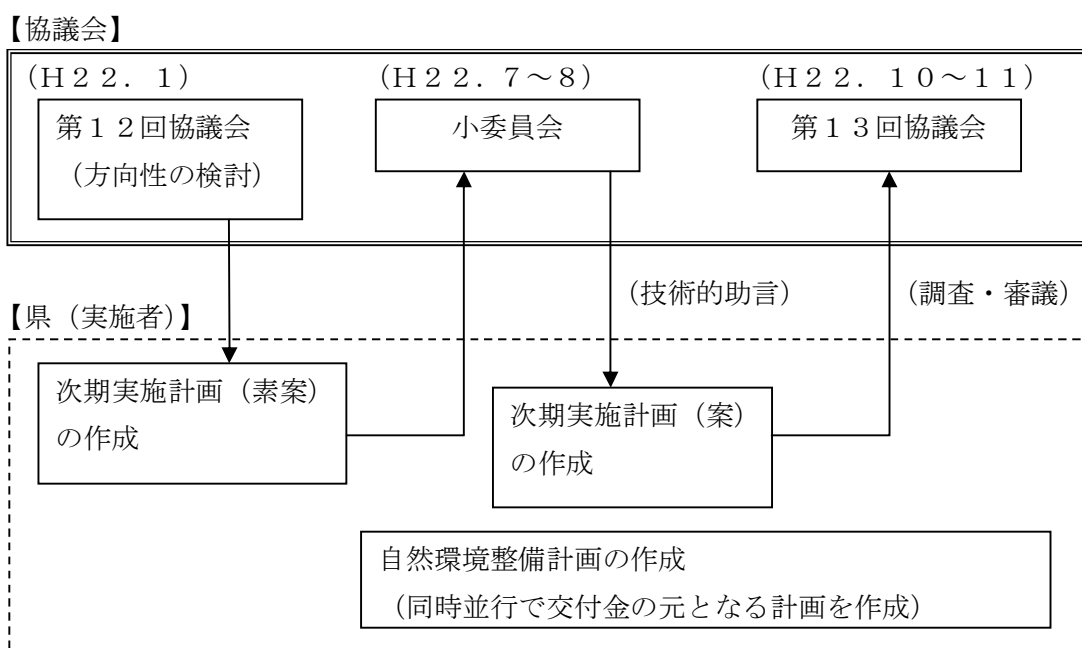
このため、平成 2 1 年 7 月～1 0 月にかけて、植栽事業が実施されていない区画を中心に調査（目視調査）を実施しました。この調査結果を基にして、事業対象地の絞り込み案を作成し、1 2 月 2 2 日の小委員会で検討頂きました。

その結果を踏まえ、対象区域を 189ha から 110ha に絞り込み、その内植栽等が必要な場所を次の 3 つに区分して進めることとしたいと考えます。

- (1) 島状植栽を実施する区域・・・・・・・・・・・・・・・・（優先度高い） 39.5ha
- (2) 周辺の森林をつなぐように補完していく区域・・（優先度中位） 7.5ha
- (3) 自然遷移に委ねる区域・・・・・・・・・・・・・・・・（優先度低い） 26.2ha

中でも、優先して進める区域として、(1) と (2) の合計 47.0ha を対象とすることで考えています。なお、(1) のうち企業・ボランティア等の参画については、県の「企業の森」制度等も含めて周知を図っていく必要性があります。

この事業地絞り込みについては、平成 2 3 年度以降の実施計画（実施主体：秋田県）の基礎的な部分となる予定です。次期実施計画の策定にむけた手続きは次の図のように考えています。



2 平成 22 年度事業計画について

(1) 植栽等について

- ・ ブナ豊作年が来年度以降となったことから、豊作年に実施を検討している天然下種更新補助作業や採種ができないため、島状植栽を中心に実施。
- ・ 箇所としては、南側を優先して No. 9、11 を対象とする。
- ・ 植栽手法は H21 同様とし、耕起・土壌改良・客土(バーク堆肥)・森林技術センターで育苗している苗(5年生)とする。
- ・ 過年度に植栽している島について枯損率が高い区域については、補植を実施する。
- ・ ブナ以外の苗木を確保するため、苗木の山取りを実施する。
- ・ モニタリング、育苗(現地苗畑・森林技術センター)は継続して実施する。

(H22 予算内訳表)

項 目	内 容	予 算 額
協議会経費	協議会、小委員会	295 千円
モニタリング	森林技術センターの行う調査経費	492 千円
育苗	森林技術センター苗畑	823 千円
植栽等委託	植栽業務、現地苗畑管理	2,150 千円
その他	事務的経費	41 千円
合計		3,781 千円

(2) 自然環境学習

- ・ 平成 21 年度同様、ボランティア植栽の受付、各種自然観察会等と連携した植栽などを継続して実施する。
- ・ 新たな組織建てによる参加型の取組みの拡充を図る。

(3) 次期実施計画書の策定

- ・ 現行の実施計画(実施主体:秋田県)が平成 22 年度が計画期末となっていることから、平成 22 年度中に次期実施計画を策定する。
- ・ 平成 23 年度以降についても、環境省の自然環境整交付金を活用したスキームを進めていくことで検討する。

(4) 協議会の開催について

- ・ 来年度は協議、小委員会各 1 回ずつを予定

【今後のスケジュール】

H22. 1 月	第 12 回協議会	「事業地絞り込みについて」・・・(今回)
H22. 7～8 月	小委員会	「補植について」+「次期実施計画(素案)の検討」
H22. 10～11 月	第 13 回協議会	「次期実施計画(案)」の検討

(実施計画書から抜粋)

はじめに

本県では、森吉山麓高原において失われたブナ林を再生し、自然環境を取り戻すことを目的として自然再生推進法に基づく自然再生協議会の設立を呼びかけ、平成17年7月に森吉山麓高原自然再生協議会が設立されている。同協議会は、学識経験者、地域関係者、ボランティア・NPO団体、関係行政機関等で構成され、平成18年3月には「森吉山麓高原自然再生全体構想」を策定している。

この全体構想においては、森吉山麓高原の自然再生に向けた二つの大きなコンセプトが示されている。一つは『100年かけてブナ林の多様な価値を取り戻す』、二つ目は『クマゲラの棲める森をつくる』ということである。また、このための短期的、中期的、長期的な目標を定めている。

本「森吉山麓高原自然再生事業実施計画書」は、県が対象となる区域の土地所有者として、また事業の実施者として先に策定された全体構想のコンセプトを踏まえ、短期的な目標を達成するために、当面（平成22年度まで）実施すべき事項や方法について取りまとめたものである。したがって、最終年度に改めて次期の実施計画を策定する必要がある。



森吉山山頂